

「うなぎ未来会議 2016 ～ニホンウナギの絶滅リスク評価～」 企画書

目的：

近年、ニホンウナギの漁獲量は劇的に減少し、環境省と IUCN（国際自然保護連合）は相次いで絶滅危惧種にリストアップした。にもかかわらず、保全と持続的利用の対策は進んでいない。理由として、(1) 個体群動態や生息環境などの基礎的な知見の不足、(2) 情報共有の不足により危機が正確に認識されていないこと、が考えられる。「うなぎ未来会議 2016」では、2018 年に予定されている IUCN レッドリストにおけるウナギ属魚類の再アセスメントの前段階として、専門家がニホンウナギの絶滅リスク評価を行うことにより、散在する本種の情報を集約するとともに、結果を広く社会と共有し、ニホンウナギの持続的利用を促進する。

目標：

上記目的達成のために以下のふたつの目標を掲げる。

(1) ニホンウナギの個体群動態、生息環境、漁獲量に関する情報の集約

各分野の国内研究者に協力を呼び掛け、分散している情報を集約する。集約した情報は IUCN ウナギ属魚類専門家グループ (AESG) に提供され、2018 年に予定されている再評価で利用される。ただし、2018 年に行われる IUCN の再評価との齟齬を避けるため、評価会議として **Endangered (EN)**、**Vulnerable (VU)** など、カテゴリーを決定することはしない。

(2) ニホンウナギの持続的利用をささえる人づくり

ニホンウナギの持続的利用を実現するためには、問題に対して自ら判断し、行動に表せる市民の存在が重要であり、そのためには正確で十分な情報共有が欠かせない。情報共有を促進するため、「うなぎ未来会議 2016」では、評価の過程を一般に公開する。また、7 名程度の市民パネルを組織し、事前レクチャー、評価会議での傍聴と質疑、パネル内での議論、シンポジウムでの専門家を交えた議論を通じて意見をまとめ、その結果を広く公表する。市民の視点でウナギの問題を詳細に議論するという、これまでにない試みによって、解決すべき社会的な課題を明確にできる可能性が期待される。

共催：

日本自然保護協会、中央大学研究開発機構、北里大学海洋生命科学部、ロンドン動物学会、IUCN（国際自然保護連合）種の保存委員会ウナギ属魚類専門家グループ

内容：

(1) 市民パネルに対する事前レクチャー「ウナギの基礎知識」

市民パネルに対し、専門家が基礎的なウナギの生態や用語を解説。

日時：2016年10月28日（金）18:00から20:00

会場：中央大学後楽園キャンパス 3号館 3907号室

(2) 評価会議

IUCN レッドリストの評価規則に沿って専門家が評価を行う。評価会議の最中、市民パネルは意見を述べることはできないが、質疑の時間が準備される。評価会議は市民パネルの他、行政機関、報道機関などに対して公開で行う。

日時：10/29（土）10:00から17:00・10/30（日）9:00から12:00

会場：中央大学後楽園キャンパス 5号館 5136号室

導入 「IUCNの評価方法について」

第1部 「ニホンウナギの個体群動態」

第2部 「ニホンウナギが直面する危機」

第3部 「現在の対策」

(3) シンポジウム

評価会議の結果を報告するとともに、専門家と市民パネルおよび一般の出席者とともに、ウナギの保全と持続的利用について討論を行う。会場の定員は300名。入場無料、事前申し込み不要。シンポジウムの詳細については、後日公開。

日時：10/30（日）14:00から17:00

会場：中央大学後楽園キャンパス 5号館 5533号室

< 暫定プログラム >

- ・ 14:00～15:30 評価会議の報告（専門家）
- ・ 15:30～16:00 市民パネルの意見と提言（市民パネル）
- ・ 16:00～17:00 総合討論

専門家（敬称略・順不同）：

- ・青山 潤（魚類生態学）
東京大学 大気海洋研究所 国際沿岸海洋研究センター 教授
- ・安部 真理子（海洋環境学）
日本自然保護協会 自然保護部 主任
- ・海部 健三（保全生態学）（共同座長）
中央大学 法学部 准教授・中央大学研究開発機構 ウナギ保全研究ユニット ユニット長
国際自然保護連合（IUCN）種の保存委員会 ウナギ専門家グループ（AESG）
- ・木村 伸吾（海洋環境学、水産海洋学）
東京大学大学院 新領域創成科学研究科・東京大学大気海洋研究所 教授
- ・白石 広美（野生生物の国際取引）
トラフィック プログラムオフィサー
- ・箱山 洋（生態学、進化学、統計学）
国立研究開発法人水産研究・教育機構 中央水産研究所 主任研究員
- ・山川 卓（水産資源学）
東京大学大学院 農学生命科学研究科 准教授
- ・横内 一樹（魚類生態学）
国立研究開発法人水産研究・教育機構 中央水産研究所 資源管理研究センター 沿岸資源・生態系グループ 研究員
- ・吉田 丈人（生態学、陸水学、進化学）
東京大学大学院 総合文化研究科 准教授
- ・吉永 龍起（個体群生態学）
北里大学 海洋生命科学部 准教授
- ・Matthew Gollock（魚類生物学、保全生態学）（共同座長）
ロンドン動物学会
国際自然保護連合（IUCN）種の保存委員会 ウナギ専門家グループ（AESG）座長

ファシリテーター（敬称略）：

遠藤智栄（地域社会デザインラボ）

市民パネル：

合計7名程度の市民パネルを公募および推薦により選出する。（応募締め切りは9月11日）

成果物：

評価会議の内容と市民パネルの意見をまとめた小冊子を作成し、印刷物、ウェブで広く公開する。

公式ブログ：

<http://c-faculty.chuo-u.ac.jp/blog/eelunit/>

問い合わせ：

〒192-0393東京都八王子市東中野724-1 2号館2869号室

中央大学研究開発機構 ウナギ保全研究ユニット

Tel・Fax：0426-74-3243

E-mail：eelunit@tamacc.cho-u.ac.jp